

とくのしまみようがんもり
徳之島明眼の森

【所 在 地】大島郡伊仙町大字犬田布字明眼1781番乙1, 1781番乙1, 1785番乙1

【種 別】国指定天然記念物（植物）

【指定年月日】平成25年3月27日



明眼の森

徳之島明眼の森は、伊仙町南西部の標高約160mの石灰岩の丘陵部に位置するアマミアラカシを中心とした自然林である。アマミアラカシはブナ科の常緑高木で、奄美大島以南の南西諸島に分布する固有亜種で、主に石灰岩地の森林を構成している。石灰岩は低地部から丘陵部にかけて多く分布し、耕作地・里山として絶えず人の干渉を受けてきており、自然林はほとんど残されていない。しかし、沖縄では聖靈の地である御嶽^{うたき}、奄美諸島でも神山や風葬地等の神聖な場所でわずかに自然林が残されている。

明眼の森は谷を含む南向きの斜面で、かつて風葬の地やノロにまつわる神聖な場所として伐採等が避けられてきたといわれている。アマミアラカシ林とタブノキ林とが発達し、構成種数も豊富で絶滅危惧種・希少種も多数生育している。沖縄県も含め残存するアマミアラカシ林は少なく、南西諸島の石灰岩地を代表する自然林として貴重な地域である。